

Close-up Interview (1月号 表紙の顔)



坂本 かや

(49期・永山コパボウル所属)

**「コロナも含めてこの1年の経験は
今後の人生に必ず生きると思います」**

2020年はとても充実した年でした。コロナでの自粛生活や、長く試合のない期間もあったこの1年で得た経験は、これまでとは比べものにならないくらい濃いもので、これからの人生に生きてくると思います。

ボウリングの方は2019年の後半からずっと調子がよくて、多くの試合で思いどおりに投げることができ、自分でも安定して上位にいたな、という印象があります。3連勝したあとは勝ち切れませんでした。すべての大会で入賞できたし、SSSカップが16位だった以外は7位、

6位、2位、5位と、ひとケタの順位でした。少しずつボウリングの引き出しが増えて、どんなコンディションでも粘って対応することができるようになったと思います。

姫路プロとは3回、優勝決定戦で対戦して2勝1敗でしたが、前の年の全日本を含めたら2勝2敗。関西オープンの決勝が終わったあと、真っ先に「これでかやちゃんと並んだ」と言われたんですよ(笑)。私のことを意識してくださってい

るのはうれしいし光栄なことだと思いつつも、上には常に姫路プロがいるという印象なので、自分的には離されずずっと付いていきたいという気持ちです。

今シーズンは次の全日本まで続くので、ランキングのトップを狙える位置にいる今のチャンスを逃さないように、これからしっかり調整して新年の大会に臨みたいと思います。前回優勝したオールスターゲーム(北小金ボウル)は、リスタイが禁止になって初めての大会で、もともと着けていない私には多少のアドバンテージがありました。次はみなさん、もっともっと調

整してくると思うし、今は女子プロ全体のレベルも上がっている気がするので、私もディフェンディングチャンピオンとして恥ずかしくないボウリングができるよう、練習に励みます。



▲オールスターゲームで優勝の坂本を称える姫路。二人の優勝決定戦での対戦は、2019年全日本選手権から通算4回、戦績は2勝2敗

姫路 麗

(33期・フタバボウル所属)

**「大勢のお客様の前で投げたいけど
今年も我慢の1年かなと思います」**

4月に緊急事態宣言が出て、強制的にステイホームとなったときには、これまで休むことは許されないと勝手に決めて走り続けてきた私には、初めて罪悪感のない休みをもらって(笑)、心身のリフレッシュになりました。

トーナメントが再開しても、感染への注意を最大限しながら、これまでとは

大会の雰囲気もかなり違っていました。PCR検査については、自身が感染しない、他の人に感染させないための安心感を得られるので、ありがたかったです。マスクを着用しての投球は、表情が見て取れないという点で、面白さが半減するんじゃないかという心配があります。お客さんがいないなかで投げるのは、ス



トライクを出そうが、スプリットを取ろうが、拍手や歓声がないというのは、寂しいですね。早く大勢のお客様の前で投げたいですが、新型コロナウイルスの収束が見えない現状を考えると、今年も我慢の年になります。覚悟をしています。

2020年は、ゾーンに入った状態が続いていた感じが、開幕戦のオールスター

も、六甲クイーンズも2位でしたし、全試合ラウンドロビンには残っていました。ただ全日本の決勝は何もできなかったのが、尻すぼみで終わった感じになってしまいました。終わった直後は、もうちょっと何かできなかったかと自分を責める気持ちがありました。が、(小林)よしみちゃんの、金枠バッジに全日本シード、来年のオールスターゲームの出場権など、たくさんのおめでとうがセットになった初優勝を、自らつかみ取った姿を見て、本当によかったなと思いました。

今年も順調にいけば2月6・7日のオールスターゲームが開幕戦になります。第1回に続く連覇を狙った昨年は(坂本)かやちゃんに阻まれて準優勝だったので、そのリベンジという意味でもモチベーション高く臨めると思います。



永野 すばる

(40期・相模原パークレーンズ所属)

「心の奥に4連勝への思いを秘めて…」
連勝はただいま継続中

2019年をランキング3位で終えて、その流れのまま意気込んでの2020年でしたから、KUWATAカップの中止は本当に落胆しました。その後は、気持ちのスイッチを完全にオフにしていました。

所属する相模原パークレーンズも約2カ月間閉鎖になって投げられなかったのが、フォームとかもそうですが、何より指が細くなってしまいました。もともとはあまり変わらないタイプで、年間を通してもテープ1~2枚の調整ですんでいたの

が、ドリルをし直さないといけないうらい変化して、それが戻るのに、ドリストカップの直前くらいまでかかりました。

不安を抱えてのドリストカップでしたが、予選を通過できて、試合動も取り戻せたので、そのあとの試合に対して、不安な要素がかなりなくなったのが大きかった。それにしても3連勝とは、こんなこともあるんですね…、という他人事のような感覚です。内容には、SSSカップなど、もう一発持ってくればというところで決め切れていな

いは、まだまだ甘さがあるなと思います。ただ何連勝なんてチャンスはそう巡ってくるものではないので、今年の初戦がどの大会になるかはまだわからないけど、心の奥底では4連勝も狙っていけるように、頑張ろうと思っています。

ところでコロナで中断中に、坂本かやちゃんからのご指名と一緒に『かやすばの今日も曲けてますか?』というチャンネル名でビデオチャットを始め



▲自信を持つ全日本プロ選手権で3連勝とし、連勝を継続したまま2020年を終えた